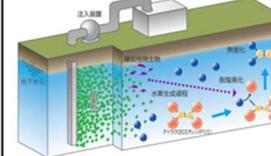


環境インフラ展開プラットフォーム・環境技術リスト・登録フォーム（日本語版）

項目	内容
技術名	地中に生息する微生物を活用した土壌・地下水浄化技術
技術分類	バイオレメディエーション
会員企業名	株式会社 鴻池組
概要	テトラクロロエチレン等の揮発性有機化合物や油で汚染された土壌・地下水中に、栄養塩や酸素等を供給し、微生物の力で土壌・地下水に含まれる有害物質を無害化し、地盤環境を改善する方法です。
内容 (400 文字以下)	<p>【目的】テトラクロロエチレン等の揮発性有機化合物や油で汚染された土壌・地下水中に、栄養塩や酸素等を供給し、微生物の力で土壌・地下水に含まれる有害物質を分解することにより無害化し、土壌・地下水の地盤環境を改善する。</p> <p>【特徴】比較的簡易な装置で原位置での処理が可能 長期間の処理となることもあるが比較的安価 汚染物質の種類に応じて、好気性処理と嫌気性処理がある 補助工法を組み合わせることにより、浄化期間の促進が可能</p> <p>【効果】汚染物質は、微生物の活動により無害な物質まで分解処理される。</p>

図
(1MB 以下)

工 法	ランドファームिंग	バイオフィール	原位置処理
概 要	汚染土壌を広げ、耕して処理を行う	汚染土壌を盛り立てて通気し、栄養分等を散布して処理を行う	汚染土壌を掘削せずにその場で処理を行う
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> 機械的に耕すため盛土厚は50cm程度まで 気候に左右されるが、比較的短期間で浄化が進む 耕す際に、汚染物質が大気拡散する恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 環境条件を制御できる 排ガスや浸出水を管理できる 耕す必要がないため、盛土高さを高くできる 	<ul style="list-style-type: none"> 低濃度で、広範囲に拡散した汚染に適応可能 汚染や地盤が不均一な場合は、浄化に長期間を要する
概要図			

バイオレメディエーション施工方法の種類



原位置処理注入設備例

参考資料	https://www.konoike.co.jp/solution/75739f09d6eb9af430c8d03fa4d31c6f43714c86.pdf
対象地域	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 東南アジア <input type="checkbox"/> 中央、南アジア <input type="checkbox"/> 中国、東アジア <input type="checkbox"/> 中東 <input type="checkbox"/> アフリカ <input type="checkbox"/> オセアニア <input type="checkbox"/> 欧米 <input type="checkbox"/> 中南米 <input checked="" type="checkbox"/> 制限なし
実績	日本国内で実績あり
SDGs との 関連	1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロ 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう ⑪. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を ⑭. 海の豊かさを守ろう ⑮. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう
参照 URL	https://www.konoike.co.jp/solution/detail/002315.html